

子どもたちに何かしらの得意分野をもたせよう！

得意分野は、なんでもできるという自信とチャレンジ精神をつくります

--- 英語(日本語)、数学、体育は、このためのマジック科目 ---

最近、しじめを苦に多くの子どもたちの尊い命が失われています。私たち大人は、しじめる子はもちろん、しじめられる子をつくらない努力をしなくてはいけません。これは、大人が介入して、しじめの場면을回避するということでもなく、しじめ自体が起こらない社会環境をつくらなければいけないということを意味します。

私たちのできるもっとも効果的な方法のひとつは、すべての子どもたちに、なにかしらの得意分野を持たせてあげることです。できれば、英語や数学といった勉強の分野と、体育の分野の両方です。文武両道の子どもたちは、しじめる側にもしじめられる側にもならないのは周知のとおりです。これはなぜなのでしょう。

自分に得意分野がある子どもは、どんなことにも積極的で、自分の考えをしっかり持ち、他人を思いやる余裕がでできます。一方、これといって得意分野を持たない子どもは、何事にも自信が持てず消極的で、友達もできにくく、極端な場合はひきこもりなどといった悪循環に陥ります。そして、まさにこのような子どもたちが、しじめの対象となります。もし、私たちが子どもたちに、なにかしらの得意分野を持たせることができれば、しじめは格段に少なくなるのではないかと確信しています。私は、まずひとつのキー科目は、まぎれもなく体育であると思います。体育は、目標に向かって努力することの重要性和、チームワークの大切さを教えてくれます。そして、なによりスポーツの楽しさを知ることは、人生の豊かさを左右するといっても過言ではありません。私は、もし可能であれば、子どもたちに体操や水泳といった全身運動と、テニスやサッカーといった球技の両方の機会を与えてあげてくれることをお勧めします。

全身運動と球技とは、かなり異なった運動能力であると考えられるからです。体育ができる子は、男の子でも女の子でも、クラスの人気者であり憧れの存在です。こんなすてきな子どもたちが増えれば、しじめという現象は急速になくなっていくでしょう。

次に、英語(日本語)といった言語能力を高めてあげることが必要です。コミュニケーション能力は、社会生活を円滑に営むうえでたいへん重要です。周囲とコミュニケーションがうまくとれず、しじめの標的となったり、しじめる側にまわったりする子が多くあります。不思議なことに、言語が得意な子どもは、このような事態に陥ることはまずありません。

3つめのキーは、数学・科学といった理数系の科目に得意分野を持たせてあげることです。理数処理能力はビジネス社会で非常に役立つ能力ですので、将来、自分に適した仕事に就くチャンスが大幅に増加します。さらに天職を全うし、充実した人生を送る大きな手助けとなります。

残念ながら、大人の社会でも、弱いものいじめや嫌がらせは多くあります。しかし、このように自分の得意分野を持ち、自信に満ちあふれた人は、たいていの場合、自分に厳しく他人に優しい思いやりのある人で、しじめとは無縁です。

人類みな兄弟という言葉が、かなり昔に流行しましたが、私もまことにそのとおりだと思います。地球の温暖化や公害などで、このかけがえのない地球そのものの存在が危ぶまれています。このような時代にありながら、民族間の利害による対立で、いまだどこかで戦争がおこなわれています。いじめと戦争がむすびついているのでしょうか。すべての人々がお互いを尊重し、この地球を守っていく時がきています。そのためにも、まことに幼児からの教育を真剣に考え直さなければいけないのです。

すべての子どもたちに、なにかしらの得意分野を持たせたい！ 私たちが特に強調する英語(日本語)、数学、体育には、人格を形成する上で、計り知れない強力なプラス要素がたくさんあります。そして、これらの教育環境を、共感する一人でも多くの人たちに与えることが、私たちの使命です。確かに私たちの学校の授業料は、一般的な日本の私立幼稚園に比べると、多少割高かもしれません。しかし、たとえば、お母さまが一生懸命にパートタイマーとして働くことで、お子さまに、この優れた教育を与えることができるレベルに設定されています。お金持ちのみが良い教育を受けられる、というのは不公平です。多少のご家族のご理解とご協力、ご努力があれば、すべての子どもたちに最良の教育が施されるべきです。そして、このような子どもたちが、やがて世界のリーダーとなって活躍してくれることでしょう。私たちが子どもたちにしてあげられること、それはまだまだ無限にあります。希望に満ちた社会とかけがえのない地球のためにも。